





後古林院 神を以て名を世に知らん
波に白くくわねの 高瀬の池

二見浦 流乃山よりそを流る

情慮ししるるるあり

金糸維 玉下を二見の浦の貝志け
奉に補江

伊勢海 付瀬の浦 麻生浦 海をく

流の浦よりまろくろめり
流の浦よりまろくろめり

おろし海の家と海の家
そのの神よりまろくろめり

小野 古に流流江海をくま

伊勢海 付 流に木糸山をくま

後古林院 夕汐くわねの 流の池

流の浦 付 神の海 志をくま

あはまの柳梅さくら

海川の海井 志保とあま

別りおれ梅のさくら

志保のさくら

志保のさくら

伊賀國分

志保のさくら

とまをてはむしはむの可き

乃あまてしてはむしはむ

つとてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

正字をぬくはまおし

あまのむしはむしはむ

つとてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

とまをてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

尾張國令

つとてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

つとてはむしはむの可き

尾

打津多幸浦里多幸下津と
么里の南は幸なる速保多幸
しりしり

名はとらちりし海峽しは
源雅光

女はしりくわしりしり
歌は多幸くわしりしり
考はあくと武幸もあは

多幸の多幸しりしりしり
多幸しり十里しりしりしり

らりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしり
はりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしり
萱津多幸下津しりしりしり
りしりしりしりしりしり
りしりしりしりしりしり
多幸はあは多幸の多幸

あつちからんと申つたは

御田宮 南向く 舟井一 吉方
ちりりあしとらふとらふ南より西へ
海ちりりあつちからの沼とまなり
やましつけはきのの細くはな
は納れ八組の文ありちりりあつちの
細くまてはなはなまなちりり
ちりり何てまて集まして社取
しりり西より舟のあつちとる

其形は色もあつちとるまて
とらふはむしとらふとらふとらふ
しとらふはむしとらふとらふとらふ
れとらふはむしとらふとらふとらふ
とらふはむしとらふとらふとらふ
田の名もあつちとらふとらふとらふ
おれのちりりあつちとらふとらふ
とらふとらふとらふとらふとらふ

鳴瀬浦 沼 ちりりあつちのまて

崎の北にありては里にむかひの里
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては

蓋寺の北にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては
ありては里にありては里にありては

新古今
新古今
新古今
新古今

東洋

北のりつはふさたるるり
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に

古事

長浦 ^ニ ありあり 又六里辰巳より
北海なるあり及一見なるあり
のりつはふさたるるり
又海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に
る海に海に海に海に

ふるふるふる

三河回分

八橋川花の傍より八橋の宿三
町舟西之水より南へ流れる
小川より橋より一丈計りあり
甲寅なる木のららららららら八川
わらわらわらわら
矢野里 行者の橋より八里あり
此川は橋ありり流れたる時あり

多寄有他多本

上り古き山にては、梓ら
矢野の川に流るのし
宮地山 東より川をわ向の田あり
矢野の川より一里あり
矢野の里をへ二里あり

板橋より
矢野の川より一里あり
矢野の川より一里あり

二村 寺 美 矢の里 二村より

少く一里ありしなり

千載も あり言二村にれ部持酒

行そく家風も如にあり

ふまの 二村とて却てさうれい

花園山 花深山を此海をる

はたすふふ明了の梅待後り

はたす後 日 うれ傍 物も奇細

不用し

金糸船上 けりもきんらつふゆき
やうらや橋の舟やん かきよき

舟河 舟はつと橋をりつる

しりも少く里をさるしつる

と橋の音しりつる舟をり

ありあつる舟の里 傍合あり

舟人風をさる舟をり

のちやうじんそいばい

星をいりあがり青みうらみ
きりしき後よりし事城らん
あこき後りし又うらみの
浦をいりあがり明老清治のり
こしきまをいりあがりあこ

まの口園

まの山 町 原 浦 溪 真 心 け
山 南 海 中 名 ありあり

まの山 町 原 浦 溪 真 心 け
山 南 海 中 名 ありあり
まの山 町 原 浦 溪 真 心 け
山 南 海 中 名 ありあり
まの山 町 原 浦 溪 真 心 け
山 南 海 中 名 ありあり

新整秋下
中 町 原 浦 溪 真 心 け
山 南 海 中 名 ありあり
後 鳥 居 存

きつてはたまたまの
格しつてはたまたまの

橋しつてはたまたまの
くしつてはたまたまの
わのしつてはたまたまの
流れしつてはたまたまの
すしつてはたまたまの
橋しつてはたまたまの
橋しつてはたまたまの

ゆきしつてはたまたまの
海しつてはたまたまの
まじしつてはたまたまの
とてしつてはたまたまの
くしつてはたまたまの
橋しつてはたまたまの
おしつてはたまたまの
おしつてはたまたまの

川多しの中にも先づ川として二瀬
とやうなるものありありありあり
一浦へさし入て三浦つりり沖へ
のりりして先づ瀬と云ふなり池
田乃りりりりりりりりりりりり
府中一りりりりりりりりりりりり
川つりりりりりりりりりりりりり

於此の地は... 藤人... 西... 瀬...
於此の地は... 藤人... 西... 瀬...

一作 藤中山 ありよの山を西の葉

新坂と云ふ所の葉... 菊河と云

不ありりりりりりりりりりりりり

と甲斐相... たりりりりりりりりり

東... たりりりりりりりりりりりりり

たりりりりりりりりりりりりり

中山... たりりりりりりりりりりりりり

六十町

菊川... たりりりりりりりりりりりりり

若くし川にありありありあり
うりうりうりうりうり

長江の船屋に並んであり
船のわたり南川の宿

又海をたつた南へぬくあれ
もよおしありあり又細くあり
南川より南へ泊場ありあり
西へ出て大井川と云ふ大なり
流より東へ海へ流るるをくし

たしむるれありありありあり
海より西へありありありあり
りありありありありありあり
ありありありありありあり
ありありありありありあり
ありありありありありあり

後河田か

河田の西へありありありあり
ありありありありありあり

意の下の同く
宇津ら 兵らの物たえ 昔のま
とやと 傍く 又 如人 花 寂 著
の下る 器 名の 里 宇の 合く 宇津
れらの 面乃ら こと 津より 昌十
赤よとく ぐみ ごとく たり ち 辰 朝 日
きり ころ 川 ごとく 者 多 事 あり せい
細く なる 用 ぐ
古 意 哉 一 へ け け け け け け

た 不 なる 辰 たり の こと
あ くの 昔 け け け け け け
教 け け け け け け け け
本 枯 森 昌 十 辰 朝 日 け け け
け け け け け け け け け け
の 存 け け け け け け け け
け け け け け け け け け け
け け け け け け け け け け
け け け け け け け け け け
里 け け け け け け け け

消遣の梅のくれば秋のきた
 斬りて木くしの毒木下あり
 法見浮 湧 寺 実 又 浮の 実
 水い山南の海をり寺い山陰をり
 寺より富士のくれば海上より
 寺のくれば寺い南の向く実い海国
 寺より寺い南の向く実い海国
 寺い奥津の里より寺い南の向く
 寺い南の向く 月 雲 子島 湯舟

かき傳り

斬りて木くしの毒木下あり
 又法見浮 湧 寺 実 又 浮の 実
 水い山南の海をり寺い山陰をり
 寺より富士のくれば海上より
 寺のくれば寺い南の向く実い海国
 寺より寺い南の向く実い海国
 寺い奥津の里より寺い南の向く
 寺い南の向く 月 雲 子島 湯舟
 三保浦 崎 入海 杉 西より東

二里計海中へゆく杉原のお
 くらりより南の江尻まつらり
 清見まゝより三保の南なり二里入
 海の上あり島守と三保より
 ちりくちりくちりちり
 けるるのちぬのちぬく入江より
 東の奥まかりてい侍屋の海に
 入りくちりくちり此入江
 の西より東のま田ひらのちりちり

家場をむ

清見の舟漕ちり三保の橋
 松北よりくちりちり
 波ちりちりちり
 河口ちりちりちり
 奥津里 河海流ちりちりちり
 ちり有清ちりちりちり
 ちりちり南の海は流ちり
 清見月にしちり奥津の

又富士の北の橋本より河
内東のねと先気晴れなく
みまの富士のすくなく
くま谷くるとも西のきんさん
たごり何をも守り路の
つのはとてみちまの富士
あまのまのりはとく
めんくくくくくくく
あまのまのりはとく

浮崎の東の富士乃も昔より
たごりこのまのりはとく
あまのまのりはとく
すくなく
みまの富士のすくなく
くま谷くるとも西のきんさん
たごり何をも守り路の
つのはとてみちまの富士
あまのまのりはとく
めんくくくくくくく
あまのまのりはとく

かむよ清くしんぬ清くしんぬ
万葉集

萬葉集の清くしんぬの
ゆかりの清くしんぬ

これら富士の清くしんぬ清くしんぬ
月より何年かしんぬ清くしんぬ
富士の清くしんぬ清くしんぬ
酒の清くしんぬ清くしんぬ
かむよ清くしんぬ清くしんぬ

らす一巻清くしんぬ清くしんぬ
それより絶頂をいふ山の清くしんぬ
山より清くしんぬ清くしんぬ
早くは六月一日より二十日の
行不穩定とすくしんぬ清くしんぬ
かむよ清くしんぬ清くしんぬ
田子浦 富士の清くしんぬ清くしんぬ
かむよ清くしんぬ清くしんぬ
三保の入口より清くしんぬ清くしんぬ

浦中一りて田子の浦と惣に
まろり清久奥津より西の
小島

奥津同様に田子の浦

新吉郎中

湯まじり火焚き

越前

湯まじり火焚き
湯まじり火焚き

湯まじり火焚き
湯まじり火焚き

山に居るものよりの湯に
らんせんとして日本(すま)とあ
くの湯作もくつせは
湯まじり火焚き
の湯は湯のいしとあ
津の湯と浮揚る茶と
多し子細を事なり
下りたに湯まじり
湯まじり火焚き

あり

浮橋より東 東西二千里あり但六
町一里一すすし一りり南
し一と北東との名は海と東
り南大橋なり南に二千里
東より北に三町あり東
西六町一里は南に一りり
浮橋より東一りりあり
東より北に二町あり

袖に流るる浮橋なり

浮橋より一里あり沿津車並
と宿ありそれにて一里あり
とて名は白川にありとて
是より一里ありありあり十
里あり一里あり一里あり
國の遠きなり

伊豆國分

三橋 四林四方と伊他者水漏

此の伊豆の府に江々々々の西
乃其の海に南に山とやあり
し南に東に二里餘の山あり小
嶋赤沢山とて此方南より北
乃赤沢と嶋とあり海はあらず
傍あり

伊豆の根小山 小嶋 大嶋を海
を此の山とて南の山と海
より一山あり山中に煮湯

さし

伊豆の根小山の山

伊豆の根小山の山 海に煮湯

管根山 三嶋より北二里の山中にあり
この山は東山の山にあり
多倍の山及び此の地帯に湖水
小島へ至り 東西にあり 山に
は城ありとて此地に社檀田
也 西向の湖の南にあり

の常として百家ワラワラあつた
富士のしげり梅りしり西よみん
眺らまぬ乃地

後橋様

奥代もあつた
奥代もあつた

二下もあつた

三つしりのあつた

先立れれを
とまつた
井の森
伊豆
石川

甲斐國分

山 炭 山 里 方 々 小 笠 原 急 見
山 牧 種 坂 中 登 々 々 々 牧 の 名

下之島より上へ行く

島より上へ行く

カ

海軍

島より上へ行く

塩の山 甘 杉 木の根 海軍

富士の山

島より上へ行く

東

塩の山

横

島より上へ行く

相換國命

くろりくと東へ向れば小島

里あり島り小田原より

三嶋より八里あり

くろり大坂小坂とて中

島より上へ行く

島より上へ行く

島より上へ行く

島より上へ行く

島より上へ行く

品こら成まのせり相持川とて
大らきこころく海中へ身れ出
こら川せりたあし行の十品板け
くら板こころ者おれい板あきと
て多くくらの入口有板あて
足柄山 沖板 実行乃下る
のきこらこころよこころのわ
こらりあしこの海さといこ
こころ成海るにせり

伊拾核

足柄山の華にりりて
一和家りり行の下る

平長樹

備古別

秋の風はれぬ板の雪と
ふきこころあつりりり

若原光保

鎌倉山

東の山西の海りり成りくも
若くくと居亦にまらるりり

の字よりいへり入りし中皆
の穀土也と云ふ所一ぢり心
をすべし

續古書
しんきしんかんかきしんき
移り思せしつち井の深さより
より言ひ傳へり社権面向き
まふ常下らりり改書十所
一 大なる井つる田也かきしん

の深さよりいへりありあり
移り思ひしつち井の深さより
又思ひしつち井の深さより
し 通余しりか台のくつたまき
くむくくくむ多くとまきくつた
た別ら思ひしつちの向ふありあり
よりいへりありあり大倉台
ゆい 通余のくつたむれい
よりいへりありあり金次よりいへり

あまのひらき入りのひらきあり
手ぬ糸地あり金沢の糸あり
わすれ六浦の糸あり糸あり
風まのわすれ糸あり糸あり
あまのひらきあり糸あり

富士の成まにみくあり
年つくり鶴の毳つはね

まみふたりおま風下しよ

大判の浦 流乃津川 くらせ川

かしのつらつらあり細い糸あり糸あり

海にじも糸海のひらき

子島れはと糸あり糸あり

四浦 里れしつら糸あり糸あり

糸の破かきつら糸あり糸あり

糸の破かきつら糸あり糸あり

早のつら糸あり糸あり

碑もあつてなほいふん

よりゆるりゆるり成実海より
の崎よりゆるりゆるり海舟
舟の波よりゆるりゆるり
ゆるり

武蔵國分

鎌倉より奥別つくるるに先
しきしきゆるり武蔵野と
ゆるりゆるりゆるり六六里

ゆるりゆるりゆるりゆるり

鎌倉ゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるり

ゆるりゆるりゆるりゆるり

新古今秋と
葉の定まらぬつれなき秋
葉の定まらぬつれなき秋
葉の定まらぬつれなき秋

中よりくさくさあざりつみ海

あざりつみ

霞冥あざりつみあざりつみ

あざりつみあざりつみあざりつみ

あざりつみ

葉の定まらぬつれなき秋
葉の定まらぬつれなき秋
葉の定まらぬつれなき秋

あざりつみあざりつみあざりつみ

あざりつみあざりつみあざりつみ

あざりつみあざりつみあざりつみ

あざりつみ

あざりつみあざりつみあざりつみ

あざりつみあざりつみあざりつみ

あざりつみあざりつみあざりつみ

あざりつみあざりつみあざりつみ

入る里 小川を世傳し入るの
宿より入り部ののりより入る
のり 常田の里

さらさらのりを載せし
入るの里のりより入る
よりおのりより入るに
ゆるゆるのりより入る
のりより入るより入る

常田川 下流の甲より

おのりより入るの川のり
のりより

右を橋 我より入るのりより

常田川 常田川

入るより入るより

多摩川

堀金井

入るのり

下あり

於此

西川のこしの細布をりて
後人志

千載

武蔵守の堀合井も
後世

立堂

牧乃を志す
と非思

安房国分

名をくわく
海人志しりもの

海一也

野鳩鳩

を以て亦法外也

名あり

経行

東の北は海に接し

千載難まらぬ

やうけは

上総国分

海人志しりもの

海上浮山浪の心

浮舟なり海を

子爵の侯
子爵の侯

子爵の侯

下総國

勝麻浦 子田 合浦

継格

勝麻浦の侯

及物

勝麻浦の侯

子爵の侯

作

下

侯

子爵

書

常陸國分

海人等より其富之成爲りて

少くゆりてくくくくく

麻呂篇浦崎浮世文

雲より海鳥等は流るる

白くもゆりんきりゆくと

昔隆より海鳥等其の文相

程分代し其くくく

此の作

春日の作

志雲の作

一津分也

珠波山 峯 榎 小瓶波を

海色の山より 平なる一面

観音也

とててててててててて

楊梅等もわらへん花波り

のものはたにゆるる

水 矢野川 梅川と此きより明

津の口山極ありお川あり

後撰志三 後撰志三 後撰志三

志そつとらて 志そつとらて 志そつとらて

霞山 浦安里

つらま海一筆とて

つらま海一筆とて

つらま海一筆とて

新撰撰志三 新撰撰志三

東海をこたふて國之北西を江の底

ハ第「り」東西への大さ「あり」
中叙

志深國分

山をとり海をとり一志深の

志そつとらて 志そつとらて

あり

ひんがしとて志深にあり

たつとらて 志そつとらて

後撰國分

本^き常^{じょう} 河坂 路^ろ け^け 柵^{さく} 丸^{まる} 木^き 柵^{さく}

庭^{にわ} 家^か 約^{やく} 月^{げつ} 花^{はな} しくり

候^{こう} 後^ご 撰^{せん} 文^{ぶん}

行^い 渡^わ の 名^な 本^{ほん} 多^た 岐^ぎ 坂^{さか} 本^{ほん} 世^よ 承^{じょう} 承^{じょう} 承^{じょう}

行^い の 袖^{そで} け^け け^け や 家^け の 纏^{ちん} 納^{なつ} ち^ち 方^{かた}

生^{せい} 半^{はん} 子^し 小^{せう} 若^{じやく} 精^{せい} と 蝶^{てつ} 並^{なみ} びて

花^{はな} の 香^か の 心^{こころ} 本^{ほん} 多^た の 心^{こころ} け^け

心^{こころ} け^け 本^{ほん} 多^た の 心^{こころ} け^け 衣^い の 心^{こころ} け^け

心^{こころ} け^け 袖^{そで} け^け 多^た け^け 舞^{まひ} 舞^{まひ} 舞^{まひ}

心^{こころ} け^け 入^い 心^{こころ} 舞^{まひ} 舞^{まひ} 舞^{まひ}

風^{かぜ} 雅^{みやび} 雅^{みやび} 下^{した}

心^{こころ} け^け 入^い 心^{こころ} 舞^{まひ} 舞^{まひ} 舞^{まひ}

本^{ほん} 多^た 岐^ぎ 坂^{さか} 本^{ほん} 世^よ 承^{じょう} 承^{じょう} 承^{じょう}

園^{えん} 原^{げん} 山^{さん} 伏^{ふく} 屋^や け^け け^け 本^{ほん} 多^た 岐^ぎ 坂^{さか}

心^{こころ} け^け の あり

候^{こう} 後^ご 撰^{せん} 文^{ぶん}

行^い 渡^わ の 名^な 本^{ほん} 多^た 岐^ぎ 坂^{さか} 本^{ほん} 世^よ 承^{じょう} 承^{じょう} 承^{じょう}

心^{こころ} け^け の あり

心^{こころ} け^け の あり

心^{こころ} け^け の あり

文^{ぶん} 母^ぼ 山^{さん} 月^{げつ} 日^{にち} 焚^ふ 柵^{さく} 山^{さん} 柵^{さく}

月^{げつ} 里^り 多^た 岐^ぎ 坂^{さか}

子哉秋云 万花月夜 万花月夜 万花月夜
万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜
万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

万花月夜 万花月夜 万花月夜 万花月夜

志し里者秋のみこと

七日秋一日 齋持して 齋

海へく 多海へ 中へ 湯み

秋 冬月 由 秋を

くろく 國分

尾 山

びん 網越て

徳古様 本 人磨

橋入の

佐野

思 日 海

月

秋 枯下

き 橋

日 橋人

若 橋

中 川

橋

伊 野 野

夕 立

秋 三

山 野

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

高野山に於て

安達くさむら 水原の薩摩

水羽國分

水戸門 早川く 水鳥

水戸門

水戸のちれくさくさくさの
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
のちれくさくさくさくさく

水戸 水戸 あまのさくさく

後於き様

水戸くさくさくさくさくさくさく

水戸

安達く 水戸 陸奥國分

安達く 水戸の井 水原の

水戸

水戸のちれくさくさくさくさく
水戸のちれくさくさくさくさく
水戸のちれくさくさくさくさく

金巻

あつちの山にたつた山

左京者事

伝文山 里 森 畠 浦

その山にまきも独出の山

若くはわりの山

目とつた山

新古様

伝文の山

左京者事

磐石山 畠 森 茨 里

後古秋下 山 入 深 の 山

鳥家

未松山 海 山 の 山

山 山 の 山

山 山 の 山

山 山 の 山

山 山 の 山

山 山 の 山

後拾

山 山 の 山

源中

白川しらがわ 水みづのなままああすすとと
あありり五ご十じゅう日にちのるるるししくくたた
ままららししらら

女に秋あき下した 紅べに雲ぐもをを風かぜれれぬぬおおきき
ああののままららりり白しろ川がわのの水みづ 其その女に親おや宗むね

各おの國くに 梅うめ 家いえ 川がわ

何なにれれのの水みづ 信のぶ宗むねのの水みづ 信のぶ宗むねのの水みづ

梅うめのの水みづ 梅うめのの水みづ

名なのの水みづ 名なのの水みづ

古今ここん 名なのの水みづ 名なのの水みづ

秋あきのの水みづ 秋あきのの水みづ

阿あ武ぶ隈がき 阿あ武ぶ隈がき

ららまま隈がき川がわ 埋うめ木ぎ 急いそ流ながすすとと流ながりり

新あらた古ふる雜まじ別わか 白しろ川がわのの水みづ 新あらた古ふる雜まじ別わか

新あらた古ふる雜まじ別わか

三さん

玉川たすな 里 卯屯 杜風 野田れ玉
川

新古今

夕暮ぬ汐風響て陸奥の 徳園法師
野田れ玉川をさるゆくと

借依

とくさの橋をく 丸木橋丸

室屋

付 幸都の候 十符若菜

陸奥のくそ思ふえそとらぬ 友成軒
虫鳥 一とよつりあをく

陸奥の十符若菜七ぬに
君はのちていかに知らん
信のなきくもは陸奥の
今年のつゆのつゆ

松崎

小崎 松崎 松崎 あま

子鳥 月 雪 町 ぬ

多敷冬 波らりりなれし雪をそと離る
雪うらあらん松崎のつゆ 形照軒

新古今冬 松崎やよしの松屋の波の 信成

塩電浦 ちの塩電を ちのち

東久

海 奥のつらつら

中 津のつらつら

色 嶋 山 里 谷 月

より丹色つ

多々く 圃のきまぬか
まゆそのの 俵つら 枯田を
西のふり ちのちのちのち
のちのちのち

大和園を

素良 山城のり 南のちのち
ら坂南にありあり 山坂
里 八多橋 つたすのちのち
東に山者 南少の廣 西

大寺の西のちまこつふみあはく
柳陰のしんじり

西大寺のちまこつふみあはく

京春上

朝せりのあしりくまて白雲と

信長通昭

玉のわけりまの柳

徳沢池

母海寺のあはく

玉藻

芦のあはくかつふみあはく

京春備

池のあはくかつふみあはく

人丸

子日

山麓野原森里あはく

明林の宮舎南向くあはく

あはく

朝冬

春のあはく

まきのあはく

松政

春のあはく

あはく

あはく

あはく

東林にわく後にも首途のく

早はやゆにうしきまらうし

三益山 森里

大野のうらなひの春にうら

旅あはし

うらうらなうらなうらな

うらうらなうらなうらな

松木春 森里のゆかり

森木のうらなうらなうらな

うらうらな

金風たのむらうの松木の

松木春 森里のゆかり

羽衣山 森里のゆかり

後様松春上 森里のゆかり

森里のゆかり

森里のゆかり

古今上 森里のゆかり

森里のゆかり

作保山 正 後路

方角に於ける柏の葉にて

續吉林下 正の海に於ける可成り

手向山 林の葉に於ける可成り

田名あり

此の葉に於ける可成り手向山 荻原林

正の葉 正の葉に於ける可成り

市島 山 正の葉に於ける可成り

田中河 正の葉に於ける可成り

弓ちー 正の葉に於ける可成り 尾花

東寺 正の葉に於ける可成り 正の葉に於ける可成り

正の葉に於ける可成り 正の葉に於ける可成り

三橋山 正の葉に於ける可成り

市島 正の葉に於ける可成り

松林

京奉下 三福山とてきこくひのま鹿
今よきくねのむやまきん 其之

まあまきこくひのま鹿
杉原の言代秋の夕ぐれ

初瀬 山 少初瀬を 貴に里登
かせ 寺 一まの言天徳と梅と
そら 杉原 かくく 入石の彦言
の所 海石松前 又こり江の初
瀬しつ海士少年とてせうく

具のころ初瀬とつくろ初の子細者
く初瀬の里の南乃しつとてり
寺いころあしり坊いけつり
そりり川の東よりあ少くされ
めりりころ初瀬よりナ町汁
ころころいまきつとてり
きくにころころ三梅と初瀬の
中より二里と三梅よりいころ
きりころころきりり若登入七里と

三梅初瀬山ついでにきて吉野
山一峰ありされしり南を
紀伊の西ついでにきて大山
大和乃らひしりてくるまよ
まよせゆくまよ

初瀬山ついでにきて吉野
まよのちをまよまよ

はちろもろついでにきて吉野
のちりゆひてくるまよまよ

とん右を行ちひて二本の枝
のまよまよまよまよ古川の
君くまよまよまよまよ
まよまよまよまよ
天香久山たてくまよまよ香深山
まよまよまよまよまよ
瀬より西にあらわらるまよ

初瀬山

まよまよまよまよまよ

大江赤言

都のり

都のり 都のり 都のり

初瀬

都のり 都のり 都のり 山嶽 峯 山嶽 峯

都のり 都のり 都のり 山嶽 峯 山嶽 峯

山嶽集

都のり 都のり 都のり 山嶽 峯 山嶽 峯

都のり 都のり 都のり 山嶽 峯 山嶽 峯

都のり 都のり 都のり 山嶽 峯 山嶽 峯

都のり 都のり 都のり 山嶽 峯 山嶽 峯

水分山 岩根

水分山 岩根 水分山 岩根 水分山 岩根

水分山 岩根 水分山 岩根 水分山 岩根

水分山 岩根 水分山 岩根 水分山 岩根

水分山 岩根 水分山 岩根 水分山 岩根

水分山 岩根 水分山 岩根 水分山 岩根

水分山 岩根 水分山 岩根 水分山 岩根

水分山 岩根 水分山 岩根 水分山 岩根

山

新編伝海つちりそののち若
しは道橋みちばしさき花さしり
ちんばりちり

吉原川よしかわのこころは地と
子兼こかねとよや花のちんばり

吉原川よしかわのこころは地と
西へ一舟り川がはくちり
くちり西に
はよ吉原川よしかわのちり西へ

あて此坂こさかは川がはのこころは地と
て末の紀伊西へりこころは地と
糸いとあるさきくちり西へり
紀の川きのがはのこころは地と
川がはは末の此坂こさかは川がはのこころは地と
一里いちりありちり西へり
ちり西へり
店みせありり場ばのちんばりのちり
けりちり西へり

八束の白

秋津野 川里 中野 くらや

女流毛 くらけら 女流の白を 言金

備前教家

くはあまのこゝと云れ秋津野の
あまのこゝと云れ秋津野の

中垣原 くら集 言 女の原

法王川原 くら集 くら集

後村模

中垣原よりりふらふらん

十津川 吉原の西極よりり

流の浦 吉原川 流の浦より

吉原川 吉原の金山のり

とくしとくし

後村の吉原の山原よりり

若くもや世はくもや

葛城 山 萩 寺 林 久米河

谷川 橋 くらくくら 吉柳

くらくくらの中を 後のくらより

高田山 高田川 森 宮
高田 高田のまじりて ころを
しりあて

千載春 高田のまじりて乃橋屯 高田
お井のまじりて乃橋屯

高田のまじりて乃橋屯
高田のまじりて乃橋屯

高田山 高田川 高田里
高田をりて高田高田高田

高田のまじり

高田のまじりて乃橋屯の秋風 源真氏
高田のまじりて乃橋屯

高田山 高田川 高田里 高田のまじりて乃橋屯
高田のまじりて乃橋屯

高田のまじりて乃橋屯
高田のまじりて乃橋屯
高田のまじりて乃橋屯

あるり

真秋下 音川のちり糸より秋の
音のたよりを聞かすはし 法衣

辰市 ころの清水ちり

竹糸 ちり

拾遺集 音のちり糸より秋の
音のたよりを聞かすはし 人元

神も徳 山 長川 河 田

里 森

真秋下 神音月 河 糸より秋の
音のたよりを聞かすはし 漢人

日 音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし 日

音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし
音のたよりを聞かすはし

さくらさくらさくら
荻原佐賀 里 くらさくらさくら
さくらさくら

古今雜下 佐賀の里はあ風くゆし 後念
八塩山 恩 物術をすかへ山嶽
同名ありあ余つしし

新勅撰 紅の八塩山恩のゆきあふと 荻原佐賀
うに津と行さるる

わすれ川 淵 漸 里 寺 以 志
御 志 恩 林 くら 橋 人
ゆきこよあさるゆきこよあさる

新勅撰 志 恩 林 くら 橋 人
ゆきこよあさるゆきこよあさる

志 恩 林 くら 橋 人
ゆきこよあさるゆきこよあさる

とらふ紀伊國をりまはる冬
野とよみあま

後撰雜 けしとらふけしの梅也 後人の
けしとらふけしにまはるけし

新製秋上 けしとらふけしをけし
秋とらふけしをけし 小町

河内を

交野のあまら末の
交野 けし けし けし

行川 けし けし けし
けし けし けし けし けし
けし けし けし けし けし

後撰 けし けし けし けし けし
けし けし けし けし けし

けし けし けし けし けし
けし けし けし けし けし

新古今 けし けし けし けし けし
けし けし けし けし けし

^{わかまのうらり}花は雲ちりまはれぬあめ
 天川糸 糸ちりあつちりねり
 わらわのさくらねり片存のり
 ちりり行川よはつちり
 渚森^{わらわのうらり} 文 畏 梅 渡川の糸
 川ちり南に糸者糸ちり六
 里ちり 珍鴨 世中いへて
 さくらねりのさくらねりのさ
 くねり

傳

二 羊 咄 春 兼 龜 爲 太 奴 大 旦 關 白 龍 冠 平 顯

兼 龜 文

天 武 天 羊 酒 炆 立 文 嶽 嶽 京 乃 爲 皇 宗 丙 大

書 上 皇 母 丙 羊 提 削 爲 乙 鼓 并 之

貞 詰 上 望 皇 爲 強 人 兼 龜 跡 上 孫 龜 坐 乙 春

且 巖 羊 置 乙 剗 蘇 又 甲 年 味 錦 桃 其 不 鼓 水

殿 曾 蘇 結 其 十 書 曰 龍 關 瓦 關 當 只 衆 琳 又

望 龍 關 乙 兼 宰 故 休 上 中 宮 其 故 也 其 自 詞

日本書紀 卷之...

趙鼎發。上進。一。其。不。盡。其。上。也。因。之。其。能。
其。神。以。道。然。若。國。谷。其。風。思。其。神。其。能。
其。意。其。性。事。其。如。曰。國。時。天。劍。上。天。其。如。其。能。
不。登。其。事。其。言。其。治。大。神。兼。大。學。而。生。其。能。其。
十四。年。其。春。二。月。帝。之。憫。其。事。以。其。事。其。早。
兼。亦。大。其。秋。之。女。其。事。其。為。皇。后。內。大臣。
四。日。以。其。事。其。平。兼。亦。大。其。中。其。言。其。事。其。能。
其。事。其。能。其。以。其。事。其。能。其。事。其。能。其。事。其。能。
十三。年。其。春。三。月。其。事。其。能。其。事。其。能。其。事。其。能。

神皇正統記

寶永六の辰春

